

1

侍天主（侍天主）天觀（天觀）の自生的近代性

Autogenous Modernity in the Sicheonju View of Heaven

目次

- ① 研究の背景および
目的
- 西洋の形相的天観
- 東洋の同化的天観
- 東西天観の比較

- ⑤ 東西洋地観の比較
- ⑥ 東西人間観の比較
- ⑦
- ⑧

研究の背景および目的

- 天観地観人間観は人間の実存と生存の基本的な土台
- 時代の画期をなす「近代」のような変化は、天観地観人間観の変化が尺度
- 東西天観地観人間観の根本的差異-存在論と生成論
- 侍天主天観を中心とした自生的近代性の価値の探究
- 東西文明の世界観の比較を通じた新たな人文学的洞察の追求

西洋の形相的天観

- アリストテレスの存在論:実体(本質)と現象を区分して変化を説明
- 四原因説:形相因・質料因・作用因・目的因を通じた変化の原因の説明
- 四元素説:地(地)、水(水)、火(火)、風(風)によって物質を構成
- プラトンのイデア論:目に見える世界はイデアの反映
- 形相(形相):質料を変化させる本質的原理としての天
- 近代性の基礎:存在論的思惟体系が西洋近代科学観に大きな影響

東洋の同化的天観

- 無極と太極の二重的天概念
 - 天地を生んだ無極太極(天外天)と天地に区分された後の天
- 陰陽五行の属性的思惟と相関的宇宙観
 - 実体ではなく属性で変化を説明する生成論的思惟体系
- 天円地方(天圓地方)、天道地徳(天道地德)の関係
 - 異質なものが一つに統合される同化(同化)の天観
- 神(神)の多層的概念
 - 上帝、天地神明、祖上神の有機的統合構造

東西洋天觀比較

西洋の形相的 (形相的) 天	東洋の同化的 (同化的) 天
根本思惟体系 実体で変化を説明する存在論的思惟	根本思惟体系 属性で変化を説明する生成論的思惟
代表哲学 プラトンのイデア、アリストテレスの四原因説と四元素説	代表哲学 陰陽五行の相関的思惟体系、天地人三才観
天に対する認識 本質と現象の二分法的区分、境界が明確な実体	天に対する認識 天円地方、天道地徳として相互補完的關係、有機的統合
変化の観点 形相と質料の結合と分離、実体の作用	変化の観点 異質なものの同化と統合、相関的感応
神(神)の存在 唯一神、超越的・絶対的存在、第五元素としての 火	神(神)の存在 上帝と多様な神明、天外天の重層的概念、天 地方

東西地観人間観の比較

西洋の観点	東洋の観点
地観(地観)	
質料的(質料的)地観 形相(形相)を受け入れる質料としての地	凝縮的(凝縮的)地観 天円(天圓)に対する地方(地方)、内部へ向かって収縮する力
地水火風の四元素、明確な境界と実体を持つ物質世界	천도(天道)에 대한 지덕(地德), 음양오행 법칙이 내재된 유기체
人間観(人間観)	
成長論的(成長論的)人間観 機能的分化と個性性の強調、合理的理性の主体	接化的(接化的)人間観 異質な存在が出会い一つに調和する融合
천(形相)과 지(質料)의 중재자로서 자연을 대상화하고 지배하는 존재	天道(天道)と地德(地德)の融合を通じた調和と仲介の役割

結論および意義

- 西洋の形天的天観と東洋の同化的天観の根本的差異の究明
- 侍天主天観の自生的近代性は、西欧的近代性と差別化された独自の価値を持つ
- 存在論と生成論の相互補完的統合を通じた新たな世界観の可能性の提示
- 東西文明の相互理解と融合のための学問的土台の準備
- 現代社会の人文的省察と未来志向的思惟体系の構築に寄与